◆講習会等

集魚灯による漁獲マグロのヤケ対策講習会

水産業改良普及センター本部駐在　吉田聰

1．目的

集魚灯で漁獲されるマグロはその身に焼けが多く、市場での価値ランクが最下位なため、漁業経営を圧迫していることから、ヤケに関する熱原理（放熱、伝達）について講習会を行いたいとの要望を受け今回の勉強会を開催した。

2．方法

県内漁業者、市長村、県漁連仲買人を参集対象として、平成２４年６月１３日に沖縄市産業交流センターにおいて「集魚灯で漁獲するマグロのヤケ対策勉強会と情報交換会」と題して集魚灯講習会を開催した。

3．結果

当日は、漁業者、市長村職員他、仲買人を含め７０名以上が参加した。

県からは水産海洋技術センター太田主任研究員が「集魚灯とマグロの行動生理及びヤケ対策」について、水産課川満主査が「沖縄美ら海まぐろブランディング事業」について報告を行った後、県漁連仲買人の坂下水産株式会社の當山社長から「市場におけるマグロの取扱状況」について情報提供していただいた。

その後、講師と会場で意見交換を行い、県水産業改良普及センター大嶋所長、當山氏、太田氏が登壇し、来場した漁業関係者と地元で抱える課題について質疑応答を行った。

久米島の漁業者からは、地元のヤケ対策としてマグロを4つ割りにする例が報告され、この場合の仲買の評価について當山氏へ直接質問があり、同氏からは県内消費では問題ないと思われるが、県外出荷については手を加えることで商品価値が下がる可能性が大きいが、試してみる価値はあるとのアドバイスがあった。この他、会場からの活発な質問、意見により予定時間を大幅に延長する盛況ぶりであった。

4．考察

今回の勉強会では県研究員の他、仲買を講師として招いたことにより、来場者は生産者側の課題、考えのみを知るのではなく、消費者側の考えについても学ぶことができ非常に有意義な勉強会だったと思われる。

しかしながら、一部の来場者からはヤケに対する技術について、「昔からほとんど進展していない、早急に新しい技術の開発が必要」等の厳しい意見もあり今後の課題も見つかった。

集魚灯漁業については県内各地で就業者が増加傾向にあることから、新しい技術の開発とともに、今後も講習会等の開催の必要性を感じた。

県水産海洋研究センター太田主任研究員

意見交換での質疑の様子

（株）坂下水産　當山氏

全体の様子

県水産課　川満氏

登壇された講師の方々